

連載特集 - 衛星余話

本誌編集委員 風神 裕

少し異なる視点からの宇宙開発の歴史（3）



連載も3回目となりましたが、今回で最終回です。本誌は隔月発行の為、半年間の連載となります。読者の皆様の忍耐に深く感謝いたします。最初から「おまけ」という訳ではありませんが、次のWEBをクリックして下さい。有名なイントロダクションです。

<http://www.jamesbond.com>

著者近景

今回はティモシイデイルトンとピエールブロスナンです。ティモシイデイルトンは英国のシェイクスピア俳優であり、私の大好きなジェームスボンドですが、残念ながら第15作の「The Living Daylights」と第16作の「Licence to Kill」の2本にしか出演していません。また、作品の中でも、宇宙開発に関連することが全く取り上げられていません。ピエールブロスナンは現役のジェームスボンドです。第17作の「Golden Eye」でデビュー以来、3本に出演、現在4本目が製作中です。彼の作品ほど宇宙開発に関連するものを取り上げられた作品はありません。従って、今回はピエールブロスナンのジェームスボンド作品が中心となります。参考の為、今までと同じ表を掲載します。

二人が登場する時代1987年からは1999年には、数多くの商用衛星が多数打ち上げられました。衛星通信が一輪の花を咲かせた時代です。87年4機、88年12機、89年8機、90年18機、91年15機、92年18機、93年9機、94年18機、95年19機、96年27機、97年28機、98年24機、99年19機で、00年29機のピークを迎えます。

Year	Movie Title	James Bond as	Topics	
1962	Dr. No	Sean Connery	Rocket	第15作「The Living Daylights」は1987年の作品です。冒頭の航空機からの降下シーンは圧巻ですが、ティモシイデイルトンの高度はここまでで、宇宙空間に飛び立つことが出来ませんでした。アフガニスタンが舞台ですが、まだ、ソビエトの影響下にある時代で、タリバン政権は現れていません。ゲリラと一緒に、ジェームスボンドが活躍しますが、ゲリラの必需品と
1963	From Russia With Love	Sean Connery		
1964	Goldfinger	Sean Connery		
1965	Thunderball	Sean Connery		
1967	You Only Live Twice	Sean Connery	Satellite	
1969	On Her Majesty's Secret Service	George Lazenby		
1971	Diamonds Are Forever	Sean Connery	Satellite	
1973	Live And Let Die	Roger Moore		
1974	The Man With Golden Gun	Roger Moore		
1977	The Spy Who Loved Me	Roger Moore		
1979	Moonraker	Roger Moore	Shuttle	
1981	For Your Eyes Only	Roger Moore		
1983	Octopussy	Roger Moore		
1985	A View To A Kill	Roger Moore		
1987	The Living Daylights	Timothy Dalton		
1989	Licence To Kill	Timothy Dalton		
1995	Golden Eye	Pierce Brosnan	Satellite	
1997	Tomorrow Never Dies	Pierce Brosnan	Satellite	
1999	The World Is Not Enough	Pierce Brosnan	Satellite	

まで言われる衛星電話は登場しません。第16作「Licence To Kill」はフロリダとメキシコが舞台です。前作と同様、航空から飛び降りて友人のフェックスライターの結婚式に参列する場面がありますが、高度はここまでです。その後は海に潜ってしまいます。1989年の作品です。この年、ベルリンの壁がなくなりました。これは宇宙産業の転機でもあり、この種のスパイ映画も作品の作り方で一つの転機となりました。

6年後に現在のピエールブロスナンによる第17作(1995年)「Golden Eye」が登場します。題名から宇宙開発に縁があります。忘れられていた、ソビエト時代の人工衛星 Golden Eye です。Electronic Magnetic Pulse(EMP)という物騒な兵器を搭載した人工衛星が登場します。この兵器は、航空機などの搭載電子機器に、強力な電磁波を浴びせ、ESD(内部放電)を引き起こし、機能を停止させます。若いエンジニアにとっては、電子機器のESD対策の背景を理解できるかもしれませんが。ステルス性のある仏ユーロコプター社の戦闘ヘリコプターはEMPを浴びても、平然と飛行していました。どうして電磁波を吸収すると、その中の機器がEMPの影響を受けなくなるのか、今もって理解できませんが。

第18作(1997年)「Tomorrow Never Die」も宇宙に縁があります。GPSのデータを改竄された為、英国の情報収集船が中国領海を侵犯、中国軍の発砲を受けたどさくさに、メディア王の仲間により撃沈され、船に積まれていた暗号装置が盗まれます。これを取り戻す為に、ジェームスボンドが中国情報部員と協力して活躍します。中国情報部員を演じた香港の女優 Ms. Michelle Yeoh はその後「グリーンハート」に出演しています。この時代

から衛星通信システムはグローバルネットワークの時代となります。この年、Loral Space and Communications 社は Orion Systems 社を買収、また、メキシコでは SatMex に出資、自社のネットワーク網を広げていきます。

第 19 作 (1999 年)「World Is Not Enough」はオイルラインの独占を企んだ陰謀に関わるものです。ジェームスボンドの上司である M の過去にも触れています。なお、M は第 17 作から女性になっています。宇宙開発とはあまり関係がありませんが、囚われた M が GPS 用の信号を発信、彼女の居場所が特定され、救出されます。宇宙開発は SF から社会インフラの一部になっているのがこの作品を見ると実感されます。この年、Inmarsat が民営化されました。また、我が国の MT-SAT の打ち上げ失敗、H2A ロケットの苦闘が始まります。

ジェームスボンド映画は 1962 年に「Dr. No」で登場以来、今年で 40 周年を迎えます。現在第 20 作「Die Another Day」が製作中です。この映画が上映されるまで、私のシリーズも暫く休憩します。次回からは小淵編集委員による新シリーズが始まります。御期待下さい。